二〇一六年 **国立能楽堂十一月公演**

国立劇場開場50周年記念

平成28年度（第71回）文化庁芸術祭協賛

平成28年度（第71回）文化庁芸術祭主催

企画公演 字幕

11月1日（火）午後1時開演

◎古典の日記念〈雪舞う里に〉

組踊 **雪払い**

伊祖の子 眞境名正憲
供 親泊久玄
思鶴 新垣悟
亀千代 宮城茂雄
乙樽 親泊興照
実母の亡霊 海勢頭あける
歌・三線 山城暁
笛 宮里秀明
胡弓 新城清弘
太鼓 金城盛松

立方指導＝眞境名正憲
地謡指導＝城間徳太郎

能【観世流】 **鉢木**

シテ／佐野常世 坂井音重
ツレ／常世の妻 坂井音雅
ワキ／最明寺時頼 森常好
ワキツレ／二階堂 御厨誠吾
アイ／早打 山本則孝
アイ／二階堂の従者 山本東次郎
笛 一噌庸二
小鼓 鵜澤洋太郎
大鼓 柿原崇志
後見 観世恭秀 坂井音晴
地謡 武田祥照 藤波重孝 武田宗典 浅見重好 武田文志 久広 音隆 藤波重彦

後援＝古典の日推進委員会

終演予定午後4時15分頃

普及公演 字幕

11月12日（土）午後1時開演

解説・能楽あんない
仙境への憧憬―能「三笑」を巡って
林望（作家）

狂言【大蔵流】 **二人袴**

シテ／聟 大藏教義
アド／舅 善竹十郎
アド／太郎冠者 大藏基誠
アド／親 大藏吉次郎

能【観世流】 **三笑**

シテ／慧遠禅師 松山隆雄
ツレ／陶淵明 会田昇
ツレ／陸修静 梅若紀彰
子方／舞童 松山絢美
アイ／廬山の者 大藏彌太郎
笛 一噌幸弘
小鼓 幸正昭
大鼓 石井保彦
太鼓 小寺佐七
後見 角当行雄 西村高夫 松山隆之
地謡 安藤貴康 馬野正基 谷本健吾 岡田麗史 長山桂三 浅井文義 小早川修

終演予定午後3時30分頃

定例公演 字幕

11月18日（金）午後6時開演

◎演出の様々な形

狂言【大蔵流】 **木六駄**

シテ／太郎冠者 山本泰太郎
アド／主 山本則孝
アド／茶屋 山本東次郎
アド／伯父 山本則俊

能【喜多流】 **葛城**

前シテ／女 後シテ／葛城明神 出雲康雅
ワキ／山伏 福王和幸
ワキツレ／山伏 村瀬提
ワキツレ／山伏 矢野昌平
アイ／所の者 山本則重
笛 杉市和
小鼓 飯田清一
大鼓 亀井広忠
太鼓 観世元伯
後見 中村邦生 粟谷浩之
地謡 大島輝久 狩野了一 金子敬一郎 大村定 内田成信 香川靖嗣 佐々木多門 長島茂

神楽

終演予定午後8時45分頃

定例公演 字幕

11月30日（水）午後1時開演

狂言【和泉流】 **飛越**

シテ／新発意 髙澤祐介
アド／何某 三宅右矩

能【宝生流】 **蟬丸**

シテ／逆髪 佐野由於
ツレ／蟬丸 金森秀祥
ワキ／藤原清貫 工藤和哉
ワキツレ／輿昇 則久英志
ワキツレ／輿昇 大日方寛
アイ／博雅三位 野村萬斎
笛 藤田次郎
小鼓 後藤嘉津幸
大鼓 飯嶋六之佐
後見 小倉健太郎 佐野弘宜
地謡 佐野玄宜 朝倉俊樹 髙橋憲正 髙橋章 水上優 大坪喜美雄 大友順 金井雄資

終演予定午後3時15分予定

◎古典の日記念〈雪舞う里に〉

平成20年に宣言された「古典の日」を記念した、ジャンルを越えた古典芸能を共通のテーマでご覧いただく公演です。今回は雪を象徴的に描いた組踊と能をお届けします。

組踊 雪払い 雪の降る日、思鶴は継母から家を追い出されてしまいます。思鶴を助けた父親は継母に怒り、斬りかかりますが…。南国・琉球の芸能には珍しい、雪の登場する作品です。

「いざ鎌倉」の心意気

鉢木 雪の降りしきる夜、佐野常世が秘蔵の鉢木を薪にして歓待した旅僧は、実は北条時頼でした。誇り高き男達の姿を描く劇的な作品です。

◇

二人袴 聟入りの挨拶に、父親と二人でやって来た聟。ところが舅と対面するのに袴が一つしかありません。二人は同時に袴を着るために…。

三賢人の描く中国絵画の世界

三笑 世俗を捨てた隠者たちですら、酒に酔い、どっと笑うこともある、古の中国・仙境虎渓の地を舞台に、枯れた味わいとユーモア、独特の風合いのある能です。

◇

〈演出の様々な形〉

同一作品を流儀や家による違った演出でお楽しみいただく本シリーズ。今回は、家により舞台展開が異なる狂言「木六駄」と、能「葛城」を二ヶ月違う小書（特殊演出）でご覧いただきます。

木六駄 しんしんと雪降る中、太郎冠者は木を運ぶため六匹の牛を引いて山道をゆきます。雪の情景と牛をあやつる様を演者の技で見せる、太郎冠者物の大曲です。

雪景色の静謐な世界

葛城 役行者の命令に背いて呪縛されていた大和葛城の女神が、ひとときを解き放たれ、一面の銀世界の中に舞を舞います。今回は小書により舞が「神楽」に変わります。

◇

飛越 小川に着いた男と新発意（仏門に入って間もない者）。臆病者の新発意はなかなか川を渡ることができません。やっとのことで飛び越えようとしますが…。

邯鄲と離別 姉弟の哀しきさだめ

蟬丸 逢坂山に捨てられた延喜帝の皇子蟬丸。藁屋で慰みに琵琶を弾いていると、狂女となった姉・逆髪がその音を頼りに近づいてきます。悲哀に満ちつつ、その詩情にも心を打たれる名作です。

お願い●出演者などの変更の場合はご了承ください。●駐車場がございませんので車でのご来場はご遠慮ください。●開演中は、時計等のアラームや携帯電話の電源はお切りください。●開演中の写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。

国立劇場 あぜくら会
入会受付中！ ››› チケットの先行予約・割引・イベント・会報誌などの特典満載！
お問い合わせはあぜくら会事務局 03-3264-0555（平日10:00～17:00/土・日・祝日・年末年始・7/1 休）まで
詳しくはあぜくら会HP http://www.ntj.jac.go.jp/member